

令和6年度 第1回松本市公民館運営審議会

日 時 令和6年6月7日(金)

18:30から

会 場 中央公民館4-3

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

4 松本市公民館運営審議会について

5 内 容

(1) 令和6年度 生涯学習課・中央公民館事務事業の概要について

(2) 5つの重点戦略について

(3) 情報交換

ア 国制度コミュニティ・スクールの取組みから(安曇公民館 羽田大樹 主査)

イ 居場所支援「ほっとスペース」の取組みから(笹賀公民館 矢口竜也 主事)

(4) その他

ア 公民館運営審議会・公民館長会・主事会合同研修会について

※長野県生涯学習推進センター「地域づくり推進研修」を活用し、12月頃実施予定

4 閉会



松本市公民館運営審議会委員・Mウイング文化センター運営委員名簿

根拠法令等 松本市公民館条例、松本市公民館運営審議会規則、松本市Mウイング文化センター運営委員会設置要綱

活 動 内 容 館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するとともに、Mウイング文化センターの運営について協議する。

◎委員長 ○副委員長

区分	氏 名	所 属 団 体 等
学校教育	五 明 佳 代	松本市立筑摩小学校 校長
	馬 場 英 晃	松本市立大野川小・中学校 校長
社会教育	○ 立 石 恵 子	フリマネット信州 代表
	降 旗 都 子	松本市地域づくり市民委員会 委員長 第三地区まちづくり協議会 副会長
	染 井 伴 子	松本市女性団体連絡協議会
	中 田 安 子	元 第三地区公民館 館長
	百 瀬 壽	松本市町内公民館長会 会長
	中 島 麻 衣	地域づくり考房「ゆめ」
	山 口 茂	松本市公民館報全市版編集委員会 委員長
	小 穴 一 郎	NPO法人信州ソフトウェア協会 代表理事
家庭教育	高 木 守	松本市PTA連合会 顧問
	久保田 由美	松本みんなのにほんご教室
有識者	◎ 向 井 健	松本大学 総合経営学部 准教授
	前 田 豊	信州大学 人文学部 准教授
公募者	小 峰 悦 雄	公募

(任期2年:令和5年8月1日から令和7年7月31日まで)

事務局	廣 田 圭 男	松本市生涯学習課・中央公民館 課長(館長)
	上 嶋 秀 俊	松本市生涯学習課・中央公民館 社会教育推進担当 係長

1 松本市公民館運営審議会について

(1) 設置根拠 松本市公民館条例

(公民館運営審議会)

第3条 本市の公民館事業の企画実施につき調査審議するため、法第29条の規定に基づき中央公民館に松本市公民館運営審議会を置く。

○参考（社会教育法第29条）

（公民館運営審議会）

第29条 公民館に公民館運営審議会を置くことができる。

2 公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するものとする。

(2) 審議会の職務：松本市公民館運営審議会規則第4条

審議会は、館長の諮問に応じ、中央及び地区公民館の事業の企画実施について調査審議する。

○参考（諮問のないときに何をするのか）

平成11年「21世紀に向けての松本市公民館のあり方について（答申）」において、審議会での議論に基づき、「審議会委員の任務」を提言

- ① 公民館活動に関し調査審議し館長に対し提言する
- ② 視察、調査、学習会等研修をする
- ③ 審議会を公開する

(3) 審議会委員定数：松本市公民館条例第3条2

審議会委員の定数は、15人以上30人以内とする。

※今期17人

○参考（定数の考え方）

「松本市附属機関等の設置等に関する要綱」では、委員の数は「概ね20人以内」と位置付けているが、下記の理由により現条文（15人以上30人以内）としている。

- ① 公民館は総合的な地域づくりの拠点として、多岐にわたる地域課題解決に向けた取組みが求められていることから、地区事情や社会的状況を踏まえた幅広い市民の意見を取り入れる必要があること。
- ② 単に調査審議するだけの審議会委員でなく、主体的に調査学習し、意見・提言・答申する学習集団であることから、全体会だけでなく、テーマ別グループ討議等の手法も取り入れている。

(4) 審議会委員の構成 松本市公民館条例第3条3

委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 有識者
- (5) 公募による市民
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(5) 委員の任期 松本市公民館条例第3条4

委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員を生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(6) 今年度審議会の開催

年3回（予定）

(7) 報酬等

松本市特別職の職員の給与及び費用弁償に関する条例により規定

ア 報酬

1回の会議（半日程度）当たり、4,900円。うち、所得税280円を控除

イ 費用弁償（交通費）

自家用車等で片道2キロメートル以上の場合に、1キロメートル当たり37円。鉄道賃、バス賃は実費

(8) その他

県及び市の主催等で開催される公民館関係者研修会等へ参加

1-2 松本市公民館運営審議会の取組み経過等について

(1) 松本市公民館運営審議会の取組み経過について

昭和24年	12月	松本市公民館運営審議会発足
45年	3月	松本市公民館運営に関して（諮問）
	6月	（同答申）
46年	5月	都市化に対応する公民館のあり方について（諮問）
47年	8月	（同答申）
52年	10月	公民館事業実施にかかる経費等について（諮問）
	11月	（同答申）
63年	1月	中央公民館の施設整備について、公民館休館日の設定について（諮問）
	5月	（同答申）

平成 2年10月 生涯学習時代における松本市公民館のあり方について（諮問）

3年	4月	（同中間答申）
9年	4月	公民館政策へ（提言）
10年	5月	21世紀に向けて松本市公民館のあり方（諮問）
	11月	公民館長の任命手続きについて（提言）
11年	5月	21世紀に向けて松本市公民館のあり方（答申）
13年	6月	調査研究報告書（提出）
14年	2月	飯田市公民館・名古屋市視察研修
	5月	松本市公民館主事会との懇談会
	11月	公民館・社会教育関係職員、委員合同研修会 ＊ 講師：小林文人さん（東京学芸大学名誉教授）
15年	1月	松本市公民館主事会との懇談会
	4月	「公民館の設置及び運営に関する基準」に対し、公民館長会・公民館主事会・公民館運営審議会・社会教育委員会・町内公民館長会の連名で、文部科学省に意見書を提出
	10月	「公民館運営と公民館運営審議会のあり方について」（報告書の提出）
16年	11月	公民館・社会教育関係者学習会 ＊ 講師：佐藤一子さん（東京大学大学院教育研究科教授）
17年	1月	「総合的な地域づくりの拠点としての公民館のあり方について」（諮問）

18年 5月 (同答申)

20年 8月 「総合的な地域づくりの拠点としての公民館のあり方について」に係る「意見書」を提出

21年10月 松本市公民館のあり方検討委員会への参画

22年 1月 公民館活動についてのグループ討議（自主学習活動）開始

23年 5月 提言書「もう一度公民館の意義、役割を考えよう」を提出

平成24年 8月 松本らしい地域づくりに向けた公民館の役割について(諮問)

1 あらためて公民館の「独自性」はどうあるべきか

2 地域づくり職員としての役割やあり方はどうあるべきか

3 地区関係団体、学習団体等との連携はどうあるべきか

25年 6月 (同答申)

25年 7月 答申について、松本市公民館主事会との学習会

25年 9月 答申について、松本市公民館長会との学習会

26年 2月 文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」に企画提案した「公民館の学びがつなぐ、松本らしい地域づくり、人づくり」事業の評価と課題を審議

27年11月 松本市公民館発足70周年記念「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会松本大会」の開催及び参画について審議

28年 5月 未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会松本大会への参画（大会副実行委員長に公運審委員長、他委員は実行委員として参画）

29年 2月 未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会松本大会の開催結果について審議

31年 7月 松本市公民館運営審議会委員の提言集の発刊

令和 3年 7月 松本市公民館運営審議会委員の提言集の発刊

(2) 前任期の審議会(R3.8.1～R5.7.31)の取組状況

令和 3年 9月 第1回審議会

- ・委嘱状の交付、役員選出
- ・公民館運営審議会について
- ・松本市の公民館について

11月 第2回審議会

- ・第3次松本市地域づくり実行計画（素案）について など

令和 4 年 2 月 第 3 回審議会

- ・地域づくりセンター体制について
- ・松本市のコミュニティスクール事業のあり方検討会について
- ・令和 3 年度未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集いについて

令和 5 年 6 月 第 4 回審議会

- ・令和 5 年度生涯学習課・中央公民館重点目標について

(3) 今回の任期中の審議会(R 5. 8. 1 ~ R 7. 7. 3 1)の取組み状況

令和 5 年 1 0 月 第 1 回審議会

- ・委嘱状の交付、役員選出
- ・公民館運営審議会について
- ・松本市公民館事業の概要等について

令和 6 年 3 月 第 2 回審議会

- ・令和 5 年度生涯学習課・中央公民館事務事業報告について

※委員からは、実際に事業に関わる職員等からの話題提供を求める意見が寄せられる。

令和6年度事務事業の概要

生涯学習課・中央公民館

1 事務事業の概要

誰もが住みよい地域社会の創造へ向け、住民・地域団体・市民活動団体・大学・行政等の「多様な主体」がお互いの立場を越えて連携し、「自分たちの地域は自分たちで創る」という自治意識の根付いた地域を形成します。お互いの垣根を越えて理解を深めながら自治能力を高めるために、公民館等の施設整備や多様な市民の意見を反映した学習・地域活動を実践します。

さらに、自治組織の高齢化や担い手不足といった課題を解決する鍵となる、若者や子育て世代の女性、移住者等を含めた幅広い世代・立場の住民が主体的に地域活動へ参画するために、若者の居場所づくりの推進や、住民ニーズに合った公民館事業を実施します。

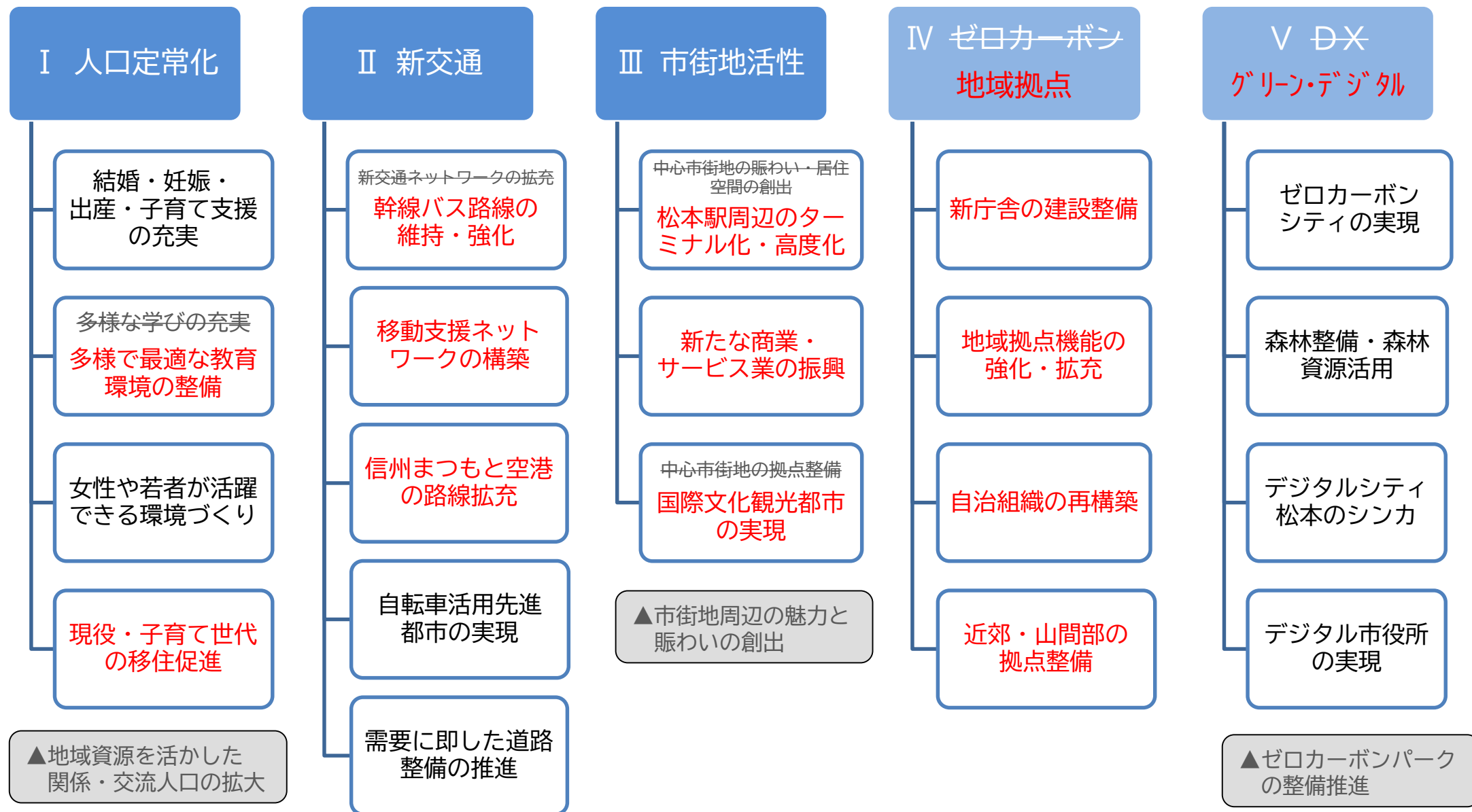
2 令和6年度における重点目標

【第3次計画で主に関連する分野・方針】

(1) コミュニティスクール事業（継続）	2-1 学童期の遊びと学びの充実 2-3 教職員研修の充実と働き方改革の推進 8-2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進
ア 内容 (ア) 地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進めるために、地域・保護者・学校等が子どもや地域に対する願いや思いを共有し、連携・協働する「コミュニティスクール事業」を全地区で推進します。 (イ) 学校の負担軽減や、地域・保護者・子ども・学校関係者のニーズにあった連携・活動を加速させるために、国制度のコミュニティ・スクールの取組みとして、令和5年度から大野川小・中学校をモデル校に、学校運営協議会(学校側)・地域学校協働本部(地域側)・地域学校協働活動推進員を設置しました。今後は、各地区の地域活性化や持続可能な地域社会形成へつなげるために、国制度を他地域へも横展開することで、これまで発見できなかった地域の人的・物的資源を掘り起こします。 イ 具体的な進め方等 (ア) これまで進めてきた松本版コミュニティスクール事業は、引き続き、地区公民館がコーディネーターを務めながら、コミュニティスクール運営委員会での話し合いを通して、地域の特性を活かした事業を展開します。 (イ) 国制度の取組みを横展開するために、大野川小・中学校での取組み結果・効果について、学校関係者(校長会幹事会)や地域関係者(地域づくりセンター長・公民館長等)と共有し、コミュニティスクール事業あり方検討会等でも議論を進めます。 その上で、取組みの核となる地域学校協働活動推進員を地域・学校・行政が連携して発掘し、令和7年度からは2校程度の新規モデル校の取組みを検討します。	
(2) 子ども・若者の居場所づくりと社会参画事業（継続）	2-2 青年期の遊びと学びの充実 2-4 多様な遊びと学びの機会の保障 3-1 子どもの権利保障と環境づくりの推進 4-2 リカレント教育の充実 8-1 放課後の子どもの居場所づくりの推進 8-3 地域づくりの推進

ア 内容 (ア) 若者が地域との関係性を構築するために、中央公民館(Mウイング)2階フリースペースや地区公民館を学習・活動スペースとして開設し、若者の居場所を確保すると共に、運営等に参画する地域住民等とも交流できる仕組みづくりを進めます。 (イ) 若者のニーズに合わせた講座やイベントを開催し、魅力のある若者の学び・交流の場づくりを進めます。 (ウ) ひきこもりの若者支援として、ひきこもりについて理解する機会の提供や居場所づくりに取り組みます。また、若者が成長し、社会で活躍できるきっかけづくりとして、関係機関と連携し、まちづくりに取組む場の提供など、若者の多様な社会参画を推進します。	イ 具体的な進め方等 (ア) 若者の居場所について、中央公民館2階のフリースペースは、利用者の意見等を取り入れながら、多様なニーズに対応できる居場所・環境づくりを進めます。 (イ) 地区公民館は、既に居場所づくりの取組みを進める3地区(松南・梓川・四賀)に加え、令和6年度から若者の利用が見込まれる7地区(第三・城東・白板・庄内・島内・芳川・寿)で開設し、他の地区についても、小中学校の長期休業にあわせて、児童・生徒の居場所として施設を開放します。 さらに、若者が地域とつながるきっかけづくりとして、公民館職員等が利用者と自然な関わりを持ちながら、「ほど良い距離感」で段階的に関係性を構築します。 (ウ) 青少年ホームの若者の居場所づくりとして、若者向け講座のヤングスクール、コーディネーターを配置したまなびの講座等を開催します。また、若者が地域や企業に働きかけ提案を行う「松本若者会議」へ、地域づくり課ユースサポート担当と連携し、参加・協力をしながら若者の参加を促します。 (エ) ひきこもりの若者を支援する事業として、令和5年度に引き続き、ひきこもりに関する研修会を当事者とその家族、支援者(民生児童委員等)、地域住民を対象に開催します。また、若者が自由に過ごし交流ができる場所として、毎週日曜日になんなんひろばに開設している「若者カフェ」を、ひきこもりの若者も利用ができることを周知します。 (オ) 様々な事情によって家で過ごしている子ども・若者の居場所として、松原地区公民館・笹賀公民館に開設している「居場所支援ほっとスペース」の取組みを、学校・地域関係者等で広く共有し、今後の事業展開へつなげます。 (カ) 二十歳の方を祝い激励し、故郷松本の良さをPRすることで、将来松本にUターンし、活躍する若者を増やすことを目的とした「ハタチの記念式典」の企画・運営を、対象者で組織する実行委員会が主体となって開催します。
(3) ICTを活用した多様な学びとコミュニティ創出事業(継続)	2-4 多様な遊びと学びの機会の保障 3-2 互いを認め合い学び合う教育の推進 4-1 社会教育活動の充実 8-1 放課後の子どもの居場所づくりの推進 8-3 地域づくりの推進 ア 内容 ICTの活用により、いつでも・だれでも・どこでも学ぶことができる学習の場を充実させ、多世代かつ多様な住民が主体的に学び、つながりや住民自治を育むためのコミュニティ形成へつなげます。また、デジタル社会ですべての人が活躍し続けるため、ICTの活用支援を進めます。 イ 具体的な進め方等 (ア) ICTを活用した動画配信等により、公民館に出向くことなく利用できる学びの場を提供します。また、革新を続ける複雑で多様なICTの情報を収集すると共に、効果的な情報発信の方策について研究を続けます。 (イ) デジタルディバイドの解消や災害対応(防災)及び移動支援等の住民生活課題解決にICTは有効な手段となるため、ICTの活用へ向けた学習講座の開催を続けます。また、DX推進本部等と連携し、地域での人材の発掘・育成を行います。

(4) 公民館等長寿命化事業（継続）	4－5 社会教育関係施設等の整備・充実
ア 内容 個別施設計画に基づく中間補修及び大規模改修等により、公民館等の長寿命化を図ります。当面は、設備機器（照明・トイレ）の更新をメインとする中間補修を行うこととし、施設の機能維持・回復に努めます。 イ 具体的な進め方等 (ア) Mウイング（中央公民館）は、令和4年度から4カ年で補修(改修)するもので、本年度は主に屋根工事、サイン・外構工事、電気・機械設備工事を進めます。 また、第4期工事となる令和7年度に向けた実施設計を完了します。 (イ) 島立公民館は実施設計を完了し、照明LED化、トイレ洋式化や屋根、外壁など施設全体の間補修を行います。 (エ) 令和7年度に解体を予定している旧奈川公民館の解体前アスベスト調査も進めます。 (ウ) なお、経常的な修繕については、地域づくりセンター長を教育委員会職員（館課長）に併任したことに伴い、各地区公民館で予算執行ができるようになった施設の維持管理について迅速に対応します。	
(5) 重要文化財旧松本高等学校校舎冷房設備設置事業（新規）	4－5 社会教育関係施設等の整備・充実 9－2 文化遺産の保存と活用
ア 内容 あがたの森文化会館として活用している重要文化財旧松本高等学校本館及び講堂を適切に管理していくための保存活用計画を見直します。 課題となっている冷房設置について、文化財建造物の毀損のリスク軽減と利用者の安全性の向上の両面から検討します。 イ 具体的な進め方等 (ア) 重要文化財等で冷房設備を設置している先進事例を調査し、文化庁及び長野県の指導を仰ぎながら導入方法を検討します。 (イ) 冷房設備の設置以外にも、今後10年間に見込まれる保存管理計画、防災計画、環境計画を中心に見直し、第2期計画の策定の準備をします。 (ウ) 冷房設備が設置できるまでの間、スポットクーラーで利用者の安全に努めます。	



重点戦略ごとのテーマ・論点及び関連部局等

別紙2

5つの重点戦略 (案)	テーマ (案)	論点(=市長公約) (*)は公約外の論点	関係部局等
Ⅰ 人口定常化	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	3歳未満時の保育料を多子世帯(2人目以降)で無償化	こども部
	多様で最適な教育環境の整備	地域の小中学校と共に学び合える「松本市立特別支援学校」を新設	こども部、教育委員会
Ⅱ 新交通	移動支援ネットワークの構築	公設民営バスを軸として市内全域に移動支援のネットワークを構築	住民自治局、交通部
	信州まつもと空港の路線拡充	信州まつもと空港の路線を大幅拡充し、世界とつながる空港を実現	住民自治局、交通部 建設部
Ⅲ 市街地活性	松本駅周辺のターミナル化・高度化	(*)あがたの森通り南側の集積化・高度化に向けた建物高さ規制の緩和	お城まちなみ創造本部 産業振興部、建設部
Ⅳ 地域拠点	自治組織の再構築	自治組織や情報伝達網の改革に取り組み、「松本防災モデル」を確立	住民自治局、危機管理部 健康福祉部
		高齢化や担い手不足の課題を抱える町会組織や公民館事業を再構築	住民自治局、教育委員会
	近郊・山間部の拠点整備	かりがね周辺区域に、サッカー・野球などの芝生フィールドを新設	スポーツ本部 産業振興部、建設部
		(*)市営寿団地における県市連携住宅建替に合わせた集約跡地利用の検討	住民自治局、建設部
Ⅴ グリーン・デジタル	ゼロカーボンシティの実現	再生可能エネルギーの普及やグリーンインフラの整備で、「緑の経済」を推進	アルプスリゾート整備本部 環境エネルギー部 産業振興部、建設部 上下水道局
Ⅳ 地域拠点 Ⅴ グリーン・デジタル	近郊・山間部の拠点整備 ゼロカーボンシティの実現	(*)波田駅周辺整備基本計画に基づく整備事業と脱炭素化推進事業	環境エネルギー部、建設部 病院局
Ⅴ グリーン・デジタル	デジタル市役所の実現	あらゆる施設やサービスに電子チケット・デジタルツールを全面導入	DX推進本部 文化観光部、教育委員会

IV 地域拠点 [テーマ] 自治組織の再構築

● 必須論点 高齢化や担い手不足の課題を抱える町会組織や公民館事業を再構築

戦略	町会のあり方・公民館のあり方を根本に立ち返って見直し、誰もが主体的に参加することのできる、持続可能な組織、事業へと再構築する。
戦術	効率化等による担い手の負担感低減及び、前例踏襲的な組織運営・事業と住民ニーズとのギャップ解消による「やらされ感」の低減を図り、若者、女性、子育て世代、移住者等の参画を促す。 ○負担軽減・効率化 【町 会】町会業務のスリム化、市からの依頼事項削減、デジタル化の推進 【公民館】前例踏襲で運営されがちな事業の刷新、一人ひとりの主体的な参画を推進 ○組織運営と事業実施のサポート 【町 会】地域づくりセンターが、近隣町会やNPO等との連携をサポート 【公民館】公民館職員が、利用者と「ほど良い距離感」で住民ニーズに基づいた事業実施を伴走型でサポート ➡身近な拠点、身近な困りごとの相談窓口としての地域づくりセンター・公民館の機能強化 ➡職員が、コーディネート役を担うため、より地域に出向いて働く体制の構築
現状と課題	【町会】 ・業務の多さ、市から町会への依頼事の多さ ➡ 負担が大きく業務のスリム化が必要 ・共働き、子育て世代は時間的余裕がない ➡ 情報共有・発信、町会活動についてデジタル化による効率化が必要 ・規模が小さく町会活動が成り立たない ➡ 近隣町会やNPO等との連携、町会合併の検討が必要 【公民館】 ・前例踏襲で運営されがちな行事と現在の住民ニーズにギャップがあり参加意欲の低下・運営側の負担につながる ➡ ギャップの解消により、「参加したい」と思わせる行事に変えていく必要がある。
具体的な取組み	
R 6	・町会業務のスリム化（モデル地区設定）、依頼業務の棚卸し検討、町会連合会三役へのモバイルPC配備 ・若者の居場所づくり対象地区拡充、公民館職員等が利用者と自然な関わりを持てる関係性づくり（伴走型支援）
R 7以降	・町会のデジタル化推進（町会連合会常任理事へのモバイルPC配備、単位町会デジタル化推進補助の検討） ・若者の居場所づくり事業の他地区への展開、既存事業の見直しの他地区への展開

地区公民館のフリースペース開放事業概要

1 ねらい

公民館と若者の関係性をさらに発展させ、「高齢者の公民館」から「多世代が交流する公民館」へ変革させる(総合戦略会議指示事項)

公民館	主な対象	実施時間 ※()内は委託管理時間	
庄内地区	小学生以上	【月・金/祝日除く】 【土・日・祝】	16時～20時(16時～20時) 9時～17時(9時～17時)
第三地区	中高生	【月～金】 【土・日・祝】	9時～20時(17時～20時) 9時～17時(9時～17時)
城 東	中高生	【毎月第1・第3土】	10時～17時(10時～17時)
白板地区	中高生	【月/祝日除く】 【土】	17時～20時(17時～20時) 9時～17時(9時～17時)
島 内	中高生	【毎月第2土】	13時～17時(13時～17時)
芳 川	中高生	【日】	10時～17時(10時～17時)
寿	中高生	【水】 【土】	15時～20時(17時～20時) 9時～17時(9時～17時)

2 実施方法

- (1) 若者が地域とつながる「きっかけづくり」として、地区公民館にフリースペースを開設する。
- (2) 若者と公民館職員等の大人が「ほど良い距離感」で少しずつ人間関係を構築し、段階的に「地域活動への参画⇒地域の担い手」へとつなげる。
- (3) 公民館職員不在時にも若者との距離感を縮めるとともに、暴力・事故・犯罪被害等を防ぐため、職員不在時には別途人員を配置

※なお、職員はできる限りフリースペースで業務を行ったり、委託先管理者を通じて若者への情報発信やニーズ把握を進めたりすることで、若者と適度な距離感で良好な関係を構築する。

公共施設に集う若者は、「個」としてのプライベート(学習・読書等)な「空間としての居場所」を求めているものの、「周りに仲間がいる」という安心感を得ようと「心の居場所」を求めている。自由気ままに一人で居たいという気持ちとともに、他方では誰かと話したい、相談したい、見ていて欲しいという気持ち・欲求を同時に有している(令和6年3月松本市社会教育委員会「提言書」)。

3 管理にあたって求められること

- (1) 利用者と気軽にあいさつし合える関係性を構築する。
⇒来館・退館時に声掛けしていただきたいですが、子どもによっては「フレンドリーに関りたい子」「あまり声掛けしてほしくない子」など様々な考え方がるため、声掛けしても反応が薄い子は、深追いしないようにお願いします。⇒徐々に関係性を構築するイメージです。
- (2) 学習・読書・会話・遊びなど、若者が自由に使えるように見守る。
⇒基本的には、子どもたちが自由に使用できるよう見守っていただきたいです。ただ、大声を出したり、部屋内を駆け回ったりするなど、場に乱れが生じるような時は、「みんなで気持ちよく使えるように、周りの人のことも考えよう」などの声掛けをしながら、その子も排除するのではなく、できるだけ一緒に共存できるような見守りをお願いします。
- (3) 若者の意見を受けとめ、公民館職員へつなげる。
⇒本事業は、「公民館を子どもたちと地域をつなげる場にする」という側面があります。そこで、子どもたちから話しかけられた場合は答えてあげて欲しいですし、「わからない・知らないこと」

や「スペースに対する要望等」に対しては、日誌に類似するものを用意する方向でいますので、一度受けとめていただき、日誌へ記載いただくようお願いいたします(⇒公民館職員へ)。

また、公民館職員から子どもたちへ伝えたいことがあった場合も、必要に応じてご協力をお願いします。

(4) 若者が安心して使用できる居場所であること。

⇒上記(1)～(3)を進めていく上で、突発的に問題が起きた場合(暴力・病気等)は、公民館職員等
に至急連絡を入れて対応するようお願いします。

4 今後のスケジュール

6月中 7地区公民館職員と中央公民館で打合せ

7月中 委託業者と契約

8. 1 7地区で居場所事業スタート

5 要調整事項

(1) 鍵の貸出

(2) 支払いに伴う書式の検討

「学校登山の未来を考える」に係る経過及び結果

1 学校登山の現状

- (1) 長野県内 資料 1
- (2) 松本市内 資料 2

2 学校行事である「奥穂高岳登山」(資料 3) に対する様々な意見

- (1) 児童・生徒
- (2) 教職員（校長、教頭、教員）
- (3) 地域住民（PTA、卒業生、移住者等）
- (4) 山岳ガイド
- (5) (1)～(4)以外の者

3 公民館の動き

- (1) 平成31年度 「奥穂高岳登山」を公民館事業にすることを目指して。
- (2) 令和5年度 意見を共有する場の設定

4 経過

- R5. 5. 15 事業計画（案）の説明及び意見集約
(大野川小中学校運営協議会・大野川小中学校地域学校協働本部)
- 6. 16 事業計画（案）の説明及び意見集約
(安曇小中学校学校運営委員会)
- 7. 27 意見集約結果の共有及び方針（案）について協議
(大野川小中学校（当番校）)
- 8. 30 両校の校長が、方針（案）について協議
- 9. 8 方針（案）について協議（大野川小中学校（当番校））
- 15 事業計画（案）について協議（大野川小中学校運営協議会） 資料 4

5 結果

- (1) 参加者募集チラシ 資料 5
- (2) 実施結果 資料 6



試験会場に向かう受験生たち＝25日午前8時15分、松本市の信大松本キャンパス 2021年

者への取次で分かった。運動事務局から約470万円を受注したため1千万円程度の赤字になったという。会社側は「スタッフ手配代行」で、事務

東京電力は25日、13日に福島・宮城県で最大震度6強を観測した地震の影響で、福島第1原発で浄化途中の汚染

水や処理水などを保管しているタンク計53基にずれが見つかったと発表した。ずれは最大19センチだった。漏れは確認されていない。

福島 震度6強
初の死者確認
福島、宮城県で震度6強を観測した13日の地震で、福島市は25日、市内の50代男性の死亡を確認したと発表した。家財の下敷きになっていた。この地震による死者は初めて。市によると、男性と連絡の取れない家族が23日に自宅を訪ね、亡くなっている男性を発見した。死亡推定時刻が地震の発生日時と近いことから、市は地震による死者と判断した。

信州の学校登山ともしび消さない

県内の学校登山の減少に歯止めをかけようと、山岳、教育関係者が25日、松本市で「信州の学校登山をすすめる会」を設立した。学校登山の意義や魅力を県民に訴え、信州独自の登山文化として再興を目指す。子どもの体力の低下や引率する教員の負担など、学校登山の課題を整理して持続可能な形を探り、学校などに提案する。

中学校長や山岳、山小屋関係者ら9人が同市中央2の信毎メディアガーデンに集まり、活動内容を議論。今後も賛同者を募って全県的なネットワークとし、

松本で「すすめる会」発足

学校登山の実施を働き掛ける考えだ。会長に就いた松本市の山岳ジャーナリスト菊地俊朗さん(86)は取材に、「120年余の歴史ある学校登山が今後も続くかどうか瀬戸際にある。長い目で登山文化を育てたい」と話した。白鳥孝伊那市長が会長代理に就任した。

県内公立中学校188校全てを対象に実施したアンケートでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、2020年度に学校登山を実施したのは17校(9%)にとどまっていた。

県内2日ぶり
感染発表なし
新型コロナウイルス
県と長野市による新型コロナウイルス感染者の発表は25日、なかった。1人も発表がないのは23日以来。25日正午時点で、入院など療養中が予定を含め15人で、うち1人が中等症、重症者はいない。

国會議員が送付

有志が、選択的夫婦別姓導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

文書は地方議会でも夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

「受け取っていない」
長野県議会議員説明
長野県議会の小池清議長(自民党、飯田市・下伊那郡)は25日の取材に、選択的夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付しないよう求める文書は受け取っていないと説明。是非については「実際に中身を読んでみないと何とも言えない」とした。県議会事務局によると、県会では近年、選択的夫婦別姓制度導入を巡る意見書などは可決していない。

県と長野市による新型コロナウイルス感染者の発表は25日、なかった。1人も発表がないのは23日以来。25日正午時点で、入院など療養中が予定を含め15人で、うち1人が中等症、重症者はいない。

県と長野市による新型コロナウイルス感染者の発表は25日、なかった。1人も発表がないのは23日以来。25日正午時点で、入院など療養中が予定を含め15人で、うち1人が中等症、重症者はいない。

有志が、選択的夫婦別姓導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

文書は地方議会でも夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

文書は地方議会でも夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

文書は地方議会でも夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

文書は地方議会でも夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

文書は地方議会でも夫婦別姓制度導入に賛同する意見書を送付し、送付先は47

76)	7746
(+6)	32
(+2)	102
(+1)	37
(+2)	16
(+39)	23
(+12)	17
(+1)	283
(+2)	8
(+15)	36
(+1)	72
(+2)	21
(+15)	21
(+1076)	26
(+74)	114
チ力	149
大船)	712人
	13
	(+1076)
	(+74)

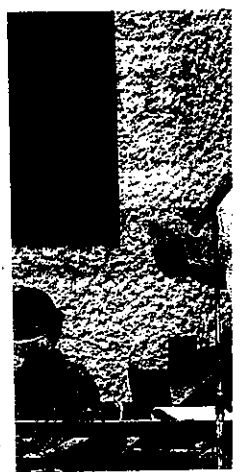
さんは、沖縄が日本に
た1972（昭和47）
15日に撮影した那覇市
真を紹介。多くの米軍
残った状態での返還を
望んでおらず、人通り
かった街中の光景を示
痛を祝う雰囲気はまっ
かったと振り返った。
洋戦争中の1944
19）年8月に沖縄を出
米潜水艦に撃沈された

児童疎開船「対馬丸」につい
ても説明。石川さんは「戦争
で命をつなぐことができなか
った人たちが大勢いる。生き
ていれば子や孫と命を伝えら
れたはず」と話した。

講演会は、日本復帰50年を
迎えた沖縄について諏訪から
考えようと手芸販売店「ア
ンの家」（諏訪市）が企画。
約40人が聴講した。

阿智「全村博物館」

村内古民家保全を本格化



設立集会で活

阿智村全域を博物館に見立
てて地域の魅力を発信する
「全村博物館構想」をさらに進
めようと3日、村民と村でつ

駒ヶ根の木下さん伊那で作品展

金属で「母なる自然」表現

駒ヶ根市赤穂の金属造形作
家、木下五郎さん（77）の作品
展「シルバマター（森は母）
の軌跡」が3日、伊那市のか
んてんば西ホールで始まっ
た。銅を中心に用い、彫金や
鍛金の技術、さびの濃淡で「母
なる自然」を作品に表現。4
年ぶりの個展で、初公開の作
品を含む40点を展示してい
る。

幅7・5メートルある初公開の
「羅盤」は、背景の木々と、
それを取り巻く渦のような
文様をあしらい、「目に見え

大作「至象」などが並ぶ木下さんの作品展

くる一般社団法人「阿智村全
村博物館協会」の設立集会在
村中央公民館で開かれた。今
後は同村駒場の古民家「つぼ
や」を拠点に活動。村内の古民
家の保全活用を本格化し、ま
ちづくり事業にも取り組む。

設立集会には村民ら42人が
参加し、本年度の事業計画や
予算案を原案通り承認した。
代表理事に選ばれた林茂伸さ
ん（66）はあいさつで「（全村
博物館の活動は）住民が自ら
地域をつくる力を付ける目的
もある」と話した。

学校登山「すすめる会」松本で会合 教職員対象の登山体験企画

2022年7月

県内の山岳、教育関係者ら
でつくる「信州の学校登山を
すすめる会」が3日、松本市
内で会合を開いた。減少して
いる学校登山の復活には引率
者への魅力発信が欠かせない
として、教職員を対象にした
登山体験会を今秋に開くこと
を決めた。

同会によると、かつては県
内中学校の9割以上が学校登
山を実施していたが、減少傾
向が続き、新型コロナウイルスが低迷
に拍車をかけた。登山経験が
ない教職員が増えていること

から体験会を企画し、具体的
な開催時期や登山対象の山を
今後詰めていく。

会合では、教育委員会や学
校長、引率者の意識の違いか
ら、地域によって学校登山へ
の「温度差」があるとの意見
や、新型コロナウイルスの影響で山小
屋の収容力が落ちたことも減
少要因になったとの声が出
た。会長で山岳ジャーナリス
トの菊地俊朗さん（87）は松本
市は「学校登山は信州の教
育文化財。どう守っていくか
考えたい」と話した。



「自分で考

さな町に転校。負けん気が強く、
成績は上位になったが、ストレス
で拒食症に。祖母が風呂敷を背負
い、1時間歩いて自宅に運ぶ料理
も吐いた。高校では病気の祖母の
ために薬学部を目指す資格を
ず、国立大系列の学校で看護を学
んだ。

実習した国立大付属病院はまる
で映画やドラマの「白い巨塔」。
大名行列のような医師の回診で、
看護師は廊下で待機し、カルテを
めぐる看護師長だけが病室に入れ
た。

になった
師です
こともあ
「チャ
愚をつけ
はよく先
院で、看
ではなく
う」と提
と反発さ
大学院
しいと
看護の世
だ。ただ

西部4地区の中学校登山の現状

令和元年度実績

	1	2	3	4
学校名	安曇中学校	奈川中学校	梓川中学校	波田中学校
学年	1	なし	1	1
実施日	7/22(月)～24(水)		7/25(木)～26(金)	8/28(水)～29(木)
行先	奥穂高岳		乗鞍岳	乗鞍岳
詳細			肩の小屋～雪渓～登頂	
経過等	19年目		生徒の体力面等を考慮し、燕岳登山から変更。 難易度を下げた。	生徒の安全面及び教員の負担軽減のため、燕岳登山から変更。 難易度を下げた。
備考	中学校登山では全国唯一		今年度から、夏休み期間中に実施	

奥穂高岳登山 概要

1 経過

奥穂高岳登山は、信州大学山岳部OBの柴田哲也元安曇校校長と望月文規元大野川校長の熱き思いに関係者が賛同し、安全対策を熟慮し、実現に至った全国唯一の中学生登山。

平成13(2001)年から令和元(2019)年までは、中学2年生を対象に毎年実施。令和2年度からは、中学1、2年生を対象に隔年実施としている。

奥穂高岳が学校登山として選ばれてきた理由は下記のとおり。

松本市安曇地域内にある、日本を代表する山岳地帯

歩き始めに足慣らしや体調コントロール区間(平坦地11km)がある。

到達地点の標高は3,190m(日本第3位の高峰)であるが、1日目の高低差は800m、2日目の高低差は900mであり、高低差としては中程度の登山

2～3時間間隔に山小屋があり、休憩時、緊急時ともに心強い。

涸沢ヒュッテ及び穂高岳山荘に山岳パトロール隊員(長野県警察山岳遭難救助隊及び岐阜県警察山岳警備隊)が常駐しており、また、大学の診療所(東京大学医学部涸沢診療所及び岐阜大学医学部奥穂高診療所)がある。

登山道が、低山等の人の少ない山域に比べて整えてある。

涸沢ヒュッテは、食事、寝具、水事情及びトイレ周り等、衛生面の整備が行き届いている。

2 目的

松本市安曇地域内にある北アルプスの最高峰を目指し、郷土を愛する心を育てる。

集団行動の体験を通して、ルールや登山のマナーを学び、友情や助け合いの精神を育む。

山小屋、山岳パトロール及び救助隊等、過酷な条件下で職務に従事している人々と接し、社会実習の一環とする。

美しく、広々とした大自然に接し、自然に対する畏敬の念を感じるとともに、自然愛護の気持ちを育て、高山地帯の様子や動植物について学び、環境学習の一環とする。

登山によって、困難に耐える精神力を養い、身体を鍛える。

3 行程

1日目

上高地ビジターセンター → 横尾 → 涸沢ヒュッテ

2日目

涸沢ヒュッテ → 白出しのコル → 山頂 → 白出しのコル → 涸沢ヒュッテ

3日目

涸沢ヒュッテ → 横尾 → 徳沢園 → 上高地バスターミナル

学校登山の今後の在り方を考えるセミナー
事業計画―(案)―

1 趣旨

- (1) 令和5年度に行なわれた奥穂高岳登山の報告を受けるとともに、子どもの体力低下や引率する教職員の負担等、学校登山の現状と課題を共有する。
- (2) 学校登山の歴史や大切にしてきたこと等を共有する。
- (3) 120年余の伝統がある信州の学校登山の存続が危ぶまれている中、上記2点を踏まえ、安曇地区の学校登山の今後の在り方を考えるきっかけをつくり、持続可能な形を探る。

2 主催等

- (1) 主催 大野川小中学校地域学校協働本部、安曇小中学校運営委員会
- (2) 主管 安曇公民館

3 内容

(1) 講演

タイトル（仮）	講演者（カッコ内は肩書）
令和5年度 奥穂高岳登山 実施報告	大野川中学校1，2年生
	小松 伸行様（大野川小中学校 教頭）
信州の「教育文化財」、学校登山の行方	菊地 俊朗様（山岳ジャーナリスト・信州の学校登山をすすめる会 会長）

- (2) グループワーク
- (3) グループワークの結果の共有

4 対象 一般

5 参加費 無料

6 講師謝礼 安曇公民館が公費で負担

学校登山の今後の在り方を考えるセミナー
事業計画（案）説明後の意見集約結果

意見等	発信者	方針	
時期	安曇公民館	11月29日(水) 10時45分～12時35分（1時間50分）	
会場		大野川小中学校アセンブリホール	
生徒の意見の吸い上げ方法		講演に組み込む。	
時間配分		講演：45分 休憩：5分 グループワーク：30分 発表：15分	教頭10+生徒5+菊地様30 3分×5グループ（仮）
		合計：95分（1時間35分）	
実施に賛成。プレスリリースをしてもよいのではないか	大野川小中学校 学校運営協議会 （5／15）	する。	
ガイド、生徒、先生の意見を聞きたい	安曇小中学校 学校運営委員会 （6／16）	山岳ガイド：案内を出す。 生徒、先生：出席時間は要調整	
オンライン配信をしてみたい		・Zoom配信を実施する。 （機器準備等の担当：大野川小中学校） ・Zoom参加者は講演のみ出席可とする。 【開催案内（周知チラシ等）発出先】 両校PTA、校長会、教頭会	
フラットな視点で議論をしたい		結論を出すことが目的ではなく、多様な意見があることを共有する場	
主催、主管について		案のとおりでよい。	
当番校と打ち合わせを進めること		案のとおりでよい。	
グループワークの方法	私見	1 各々のスタンス（肩書） 2 1を聞いての感想 3 各々のスタンス（個人） 4 3を聞いての感想 5 グループごと発表し共有 （1グループ5～6人）	

学校登山の未来を考える

参加者募集のお知らせ

理解しよう「過去」のこと。

見つめよう「今」のこと。

考えよう「未来」のこと。



【日時】 令和5年11月29日（水）

午前10時45分～午後0時35分

【会場】 大野川小中学校、安曇小中学校

1 目的

令和5年度の奥穂高岳登山の実施報告から、学校登山の現状と課題を共有します。
学校登山の歴史や大切にしてきたこと等を共有します。

120年余の伝統がある信州の学校登山の存続が危ぶまれている中、上記2点を踏まえ、安曇地区の学校登山の今後の在り方を考えるきっかけづくりを目指します。

2 日時

令和5年11月29日(水) 午前10時45分～午後0時35分

3 内容

講演

タイトル(仮)	講演者(カッコ内は肩書)
令和5年度 奥穂高岳登山 実施報告	大野川中学校1,2年生 小松 伸行(大野川小中学校 教頭)
信州の「教育文化財」、 学校登山の行方	菊地 俊朗様(信州の学校登山をすすめる会 会長、 山岳ジャーナリスト)

グループワーク

グループワークの結果の共有

4 会場

主会場 大野川小中学校

サテライト会場 安曇小中学校(講演のみ、オンラインで視聴)

5 参加費 無料

6 申込み 不要

7 主催等

主催：大野川小中学校地域学校協働本部、安曇小中学校学校運営委員会

主管：安曇公民館

8 問い合わせ

松本市安曇公民館 担当：羽田

TEL . 0263-94-2301

FAX . 0263-94-2918

MAIL azumi-k@city.matsumoto.lg.jp



令和5年12月25日 発行

【発行元】

安曇地区町会連合会

安曇地区地域づくりセンター

安曇公民館

安曇地区福祉ひろば

【連絡先】0263-94-2301

■学校登山の未来を考える(安曇公民館)

大野川小中学校及び安曇小中学校で「学校登山の未来を考える」を開催しました。

前半に行われた2つの講演から、学校登山の現状と課題、歴史や大切にしてきたこと等を共有しました。

後半には、グループワークを行い、各グループで出された意見を発表し、多様な意見があることを共有しました。

「安曇地区の子どもたちにどんな風に育って欲しいか」を想像しながら、安曇地区の学校登山の未来を考えるきっかけとなれば幸いです。出された意見の一部を掲載します。



(生徒)

- ・行く前は行きたくなかった。今は、体力面、精神面で成長できたことが実感できているので、学校登山をもっと重要なことにしていくべき。
- ・団結、協力ができるよい行事
- ・(今年の実施報告を聞いて)奥穂高岳へ行ってみたい気持ちが強くなった。
- ・今年のように、チャレンジコース(登頂を目指す)とパノラマコース(涸沢ヒュッテ周辺散策)を選択できる方法がよい。

(学校職員)

- ・安心安全他、クリアしなければならない問題も多いが、安曇だからこそ続けたい。
- ・安曇を知ることは、山を理解すること
- ・安全な環境が整わないのであれば、学校登山として継続していくことは難しい。

(PTA、地域住民等)

- ・奥穂高岳が適切かどうかは、一考を要するのではないか。
- ・10代で、仲間と共に苦しい経験を乗り越えることは貴重
- ・地元の自然に大いに親しんで欲しい。
- ・学校と地域の本気度が、未来の実施を左右すると思う。

■支所等の年末年始休業について

12月29日(金)から1月3日(水)まで、安曇支所など市役所の関連部署は年末年始休業となります。各戸籍の届出、埋葬・火葬の許可に関する事など、下記へお電話してください。

市役所宿日直

TEL. 0263-34-3000

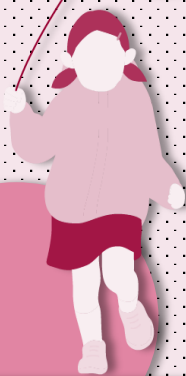
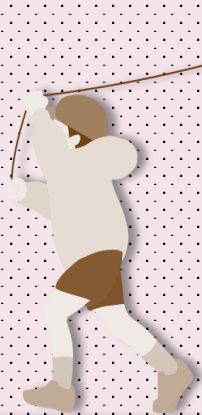
(※この期間は、マイナンバーカードによるコンビニサービスも休止となります。)



ほっとスペース笹賀

笹賀公民館で

毎週火曜日 13時 から 16時 まで開催！



不登校支援アドバイザーや
臨床心理士・公認心理師と
相談もできます

居場所支援「ほっとスペース」

では、学校に行けない、進学先が決まらず卒業してしまった…など、様々な事情により家で過ごしている子どもたちのために少しでもほっとできる居場所を提供しています。

時間内であれば、いつ来てもいつ帰ってもOKです。家でも学校でもない、新たな安心できる居場所となるかもしれません。お気軽に笹賀公民館(58-2046)までお問い合わせください。

参加費無料

バドミントン、卓球、
ラダーゲッター、折り紙、
ジェンガ、氷割りゲーム、
人生ゲーム等…

いろいろあります！

会議室や
多目的ホールで
学習もできます！



居場所支援 ほっとスペース in 笹賀公民館

～ほっとスペースへようこそ！ 少しでも“ほっと”できる空間を目指しています～

『ほっとスペース』について

学校に行けない、進学先が決まらず卒業してしまった etc など、さまざまな事情で家で過ごしている皆さんのために、少しでも“ほっと”できる居場所を提供しています。

少し外に出ることでリフレッシュできたり、いろいろな人と話すことで刺激になったり、新しい仲間をみつけたり(^ ^)

家でも学校でもない、新たな安心できる居場所となるかもしれません。



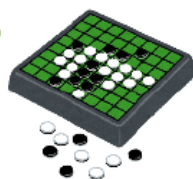
最初は外に出ることが難しいお子さんもいます。無理やり連れてくる必要はありません。

まずは保護者の方が来ることからスタートしても大丈夫です。

どうぞお気軽にご相談、お問合せください。

日程 毎週火曜日の午後1時から4時まで
利用料はかかりません。（いつ来ても、いつ帰ってもOKです。）

内容 多目的ホール（体育館）でバトミントンや卓球などの運動のほか、様々なゲームをします。また、冷暖房の効いたお部屋で勉強や読書することもできます。
（あくまでも予定なので変更も可能です。内容は相談しながら決めていきます。）



スタッフ 横林 智子（松本市教育委員会 不登校支援アドバイザー）
今井 俊文（松本市教育委員会 不登校支援アドバイザー）
山本 唯（アルプキッズ支援室 臨床心理士・公認心理師）

一緒に活動していただけるボランティアスタッフを募集中！

場所 笹賀公民館
（建物名称 松本市笹賀農村環境改善センター）
住所 松本市笹賀2929番地

お問合せ 電話 0263-33-4397
（松本市教育委員会 学校支援室）
0263-58-2046
（笹賀地区地域づくりセンター）

